●発行　企画部秘書広報課●

派遣隊ニュース　～with岩泉～

号外　平成23年5月10日

５月６日、岩手県岩泉町の伊達勝身町長が昭島市役所を訪問され、３月27日から１ヶ月間に及ぶ昭島市職員派遣隊の活躍を始め、物資や見舞金など「物心両面」にわたる昭島市の支援に対し、北川市長にお礼を述べられ、感謝状が贈呈されました。

同席において、昭島市医師会の大田眞也会長から岩泉町へ２台目の往診用車両（雪道に強い４輪駆動車）の贈呈式が行われ、伊達町長から大田会長に対し、感謝状が贈呈されました。

岩泉町長から昭島市への感謝の言葉

岩泉町長の伊達勝身でございます。

昭島市の職員の皆様方に一言御礼のご挨拶を申しあげます。

まずは、このたびの東日本大震災に際しまして早々に援助物資のご提供を賜り、また、北川市長様をはじめ、多くの市職員の皆様、昭島市民の皆様、昭島医師会の皆様、そして、東京都医師会の皆様方から心温まる義援金や多くのご支援を賜り、誠にありがたく心より御礼申しあげます。特に、３月27日から４月27日までの約１ヶ月間、20人余りにも及ぶ職員の皆様方を本町に派遣していただきまして、小本地区の被災現場、あるいは避難所での対応などにつきましても、人的なご支援を賜りました。震災対応に追われ疲労が蓄積をしておりました本町の職員に代わり献身的なご対応をしていただきましたことに対しまして、改めて深く感謝申しあげる次第でございます。

さて、このたびの東日本大震災によりまして、本町の小本地区は壊滅的な被害を受けました。津波により被災した家屋は202戸余りに上り、同時に９人の方々の尊い命が奪われるなど、私どもがかつて経験したことのない大災害となり、未だに200人を超える方々が避難所での不自由な生活を余儀なくされております。このたびの震災は百年に一度、あるいは、千年に一度の大災害とも言われておりますが、私は自然の猛威を前に何ら成すすべがなく、自然に対し人間が如何に無力であるかを痛切に思い知らされたところでもあります。しかし、震災から50日余りが経過した今、少しずつではありますが、町は落ち着きを取り戻し、また、被災者待望の仮設住宅の建設も順調に進むなど、復興に向けて一歩一歩着実に歩みを進めております。私は、多くの被災された方々や志半ばで無念の最期を遂げられた方々の郷土に対する思いを受け継ぎ、希望あふれる未来を一刻も早く築くため、全身全霊を持って本町の復興を成し遂げるよう決意を新たにしているところでもございます。

私は、このたびの震災に対し、これまで築いてまいりました昭島市と本町の絆が心強く、本当にありがたいものであることを改めて痛感をいたしたところでございます。今後におきましても引き続き、お互いの交流と連携を深めさせていただき、昭島市と本町の友好関係が更に発展していくことを切に望んでいるところでございます。今後ともなお一層のご支援、ご協力をお願い申しあげる次第でございます。

最後になりますが、北川市長様をはじめ、昭島市職員の皆様、昭島市民の皆様、昭島市医師会の皆様、そして、東京都医師会の皆様方からお寄せいただきましたご厚情に対しましても、改めて衷心から御礼申しあげますとともに、皆様方の益々のご発展とご健勝をお祈り申しあげ、御礼のご挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

同日、岩泉町から昭島市へ派遣となった澤口光治さんへの辞令交付が、伊達町長立会いのもとに行われました。

澤口　光治さん（子ども家庭部子育て支援課に配属）

この度、岩泉町から派遣となり、子ども家庭部子育て支援課児童係に配属されました澤口光治です。

東日本大震災における昭島市から岩泉町への心のこもった数々のご支援に対し、心から感謝しています。一日も早く、昭島市に慣れ親しみ、この度のご支援に対する恩返しも含め、精一杯がんばりたいと思います。よろしくお願いします。